

GPS/JIPS 安全性要約書

物質名 (SUBSTANCE NAME)

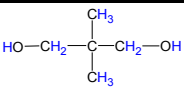
ネオペンチルグリコール (Neopentylglycol, CAS No.126-30-7)

物質の概要 (GENERAL STATEMENT)

ネオペンチルグリコールは臭いの無い白色結晶の固体である。化学プラント設備で製造され、数多くの化学品製造原料(例えば、各種塗料や樹脂の原料)として幅広く用いられている。

有害性や生物蓄積性は極めて低いと考えられるが、製造時サンプリング作業や専門家によるフレコンバッグ(紙袋)からの製品排出、建築化学品、顔料の表面処理、実験用化学品として使用する際には、適切な保護マスク、保護眼鏡および保護手袋の着用が推奨される。また環境生物への影響を最小化するために、飛散・漏洩防止策を講じると共に、定期的な監視や設備の保守点検が推奨される。

化学的特性 (CHEMICAL IDENTITY)

項目	内容
一般名	ネオペンチルグリコール
商品名	ネオペンチルグリコール
化学名	Neopentylglycol (IUPAC名：2,2-dimethylpropane-1,3-diol)
CAS番号	126-30-7
その他の番号	官報公示整理番号(化審法, 安衛法)(2)-240 EC番号 204-781-0
分子式	$(\text{CH}_3)_2\text{C}(\text{CH}_2\text{OH})_2$
構造式	
その他の情報	特になし
出典・備考	三菱ガス化学(株)発行のSDS 3項参照

使用・用途と適用 (USES AND APPLICATION)

当社製品の主な用途	アルキッド樹脂塗料、ポリエステル樹脂、粉体塗料
-----------	-------------------------

物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

可燃性のある無臭の白色固体(結晶)で、水、アルコールなどに極めて良く溶ける。

外観(物理的状态)	結晶(固体)
色	白色
臭気	無臭
比重(相対密度)	1.047
融点/沸点	129~130°C/211°C
可燃性/引火性	可燃性はあるが、火災危険性は高くない
引火点	152°C
爆発上下限界	知見なし
自己発火温度	399°C
蒸気圧	4kPa/30mmHg (124°C)
分子量	104.15
水溶解性	水に易溶
オクタノール/水分配係数	-0.104
出典・備考	三菱ガス化学(株)発行のSDS 9項参照

ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

ヒト健康に対する有害性は低いと思われるが、眼に対して刺激性を有する。

影響評価	結果 (GHS ^{*1} 危険有害性分類)
急性毒性 (経口)	区分外 ^{*4}
急性毒性 (経皮)	分類できない ^{*2}
急性毒性 (吸入-気体)	分類対象外 ^{*3}
急性毒性 (吸入-蒸気)	分類対象外
急性毒性 (吸入-粉塵)	区分外
急性毒性 (吸入-ミスト)	分類対象外
皮膚腐食性/刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	眼に強い刺激性があります (区分1)
呼吸器感受性	分類できない
皮膚感受性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器 (単回暴露)	分類できない
特定標的臓器 (反復暴露)	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない
出典・備考	三菱ガス化学(株)発行のSDS 2項参照 ^{*1} GHS : Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals。世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム。 ^{*2} 分類できない：分類の判断を行うデータが全くまたは判定するのに十分な程度に得られなかった場合。 ^{*3} 分類対象外：GHSで定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっていないもの。 ^{*4} 区分外：分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行ってみたいところGHSで規定する危険有害性区分において一番低い区分にも該当しなかった場合。

環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

環境中で徐々に分解される難分解性であるが、水生環境や土壌への残存および生物蓄積性は極めて低いと考えられる。

影響評価	結果 (GHS ^{*1} 危険有害性分類)
水生環境有害性(急性)	分類できない
水生環境有害性(慢性)	分類できない
出典・備考	三菱ガス化学(株)発行のSDS 2項参照
環境運命・動態	結果
環境中の移行性	特記事項なし
生分解性	難分解性 (環境中では徐々に分解する)
生物蓄積性	生物蓄積性は無いまたは低いと考えられる。
PBT/vPvBの結論	PBT(環境中に残留し、高い生物蓄積性と強い毒性を有する)、vPvB(環境中に非常に残留し易く、非常に高い生物蓄積性を有する)に非該当である。
出典・備考	三菱ガス化学(株)発行のSDS 12項参照

暴露 (EXPOSURE)

作業者および環境への暴露は、次項の推奨するリスク管理措置により最小化できる。

詳細	当社製品の主な用途における暴露の可能性 (暴露経路)
作業者暴露	<p>1-1. 製造時サンプリング作業 (吸入や皮膚・眼との接触) 当該物質は閉鎖系プロセスで製造されるため、作業者への暴露の可能性は極めて低い。但し、サンプリング作業などを行う場合は、吸入や皮膚・眼との接触の可能性はある。</p> <p>1-2. 専門家によるフレコンバッグ(紙袋)からの製品排出 (粉塵吸入や皮膚・眼との接触) 当該物質を室内で取り扱う場合には、適切な排気設備を用いて十分に換気された環境下で取り扱われるため、作業者への暴露の可能性は極めて低い。但し、適切な暴露対策をしていない場合は、吸入や皮膚・眼との接触の可能性はある。</p> <p>1-3. 専門家による建築化学品、顔料の表面処理、実験用化学品としての使用 (吸入や皮膚・眼との接触) 当該物質を室内で取り扱う場合には、適切な排気設備を用いて十分に換気された環境下で取り扱われるため、作業者への暴露の可能性は極めて低い。但し、適切な暴露対策をしていない場合は、吸入や皮膚・眼との接触の可能性はある。</p>
消費者暴露	<p>2-1. 消費者用途はない。 消費者への暴露の可能性は極めて低い。</p>
環境暴露	<p>3-1. 製造時サンプリング作業 (主に排水など水生環境) 当該物質は閉鎖系プロセスで製造されること、またサンプリング後、常温・常圧で速やかに固化するため、水生環境への放出の可能性は極めて低い。</p> <p>3-2. 専門家によるフレコンバッグ(紙袋)からの製品排出 (主に作業周辺の大気環境) 当該物質は適切な排気・集塵設備の下で専門家により取り扱われるため、大気環境への放出の可能性は極めて低い。</p> <p>3-3. 専門家による建築化学品、顔料の表面処理、実験用化学品としての使用 (主に排水など水生環境) 当該物質は専門家により取り扱われるため、水生環境への放出の可能性は極めて低い。</p>
注意事項	他の用途における暴露の可能性がある場合、推奨するリスク管理措置を参考に適切な措置を実行して下さい。

推奨するリスク管理措置 (RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS)

吸入や皮膚、眼への接触による健康への影響を最小化するために、製造時サンプリング作業や専門家によるフレコンバッグ(紙袋)からの製品排出、建築化学品(溶液濃度10%未満)として使用する際には、吸入経路や経皮経路での暴露を防止することが必要である。そのために適切な保護マスク、保護眼鏡および保護手袋の着用が推奨される。

また環境生物への影響を最小化するために、飛散・漏洩防止策を講じると共に、定期的な監視や設備の保守点検が推奨される。

詳細	当社リスク評価結果に基づく推奨する管理措置
対作業者暴露	<p>1-1. 製造時サンプリング作業の際は、適切な保護マスク、保護眼鏡および耐熱性保護手袋を着用する。作業責任者は、作業者に適切な保護具の選択や正しい使用方法および作業現場の管理方法などの教育をする。</p> <p>1-2. フレコンバッグ(紙袋)からの製品排出作業の際は、適切な防塵マスク、保護眼鏡および保護手袋を着用する。また粉じん対策のために局所排気を行うと共に静電気が発生する可能性があるため、アースの設置や導電性作業衣、帯電防止靴の着用などの帯電防止対策を十分に行う。作業責任者は、作業者に適切な保護具の選択や正しい使用方法および作業現場の管理方法などの教育をする。</p> <p>1-3. 建築化学品、顔料の表面処理、実験用化学品として使用する際は、適切な排気設備を用いて十分な換気を行い、適切な保護マスク(有機アミン用防毒マスク)、保護眼鏡(ゴーグル、保護面)および保護手袋を着用する。作業責任者は、作業者に適切な保護具の選択や正しい使用方法および作業現場の管理方法などの教育をする。</p>
対消費者暴露	2-1. なし



対環境暴露	3-1. 製造時サンプリング作業の際は、漏洩により環境に影響を与える恐れがあるので、漏洩防止などの対策を講じると共に日常管理、取り扱いに注意を払う。 3-2. フレコンバッグ(紙袋)からの製品排出作業の際は、粉塵が飛散して環境に影響を与える恐れがあるので、集塵対策を講じると共に取り扱いに注意を払う。 3-3. 建築化学品、顔料の表面処理、実験用化学品として使用する際は、漏洩により環境に影響を与える恐れがあるので、漏洩防止などの対策を講じると共に日常管理、取り扱いに注意を払う。
その他取扱注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・熱、火花、裸火、高温のものを着火源に近づけない。 ・酸化剤を近づけない。 ・河川などに排出され、環境へ影響を及ぼさないように注意する。 ・溶解物が漏洩した場合は、固化させて回収して、焼却処理する。
注意事項	通常での取扱い、緊急時対応、火災時、漏洩時、保管時、廃棄時、輸送時の管理措置は、三菱ガス化学(株)発行のSDS 4, 5, 6, 7, 8, 13, 14項を参照して下さい。

(注)No. は「暴露」記載箇所にあるそれぞれの「暴露の可能性」に対する管理措置を記載している。

政府機関のレビュー状況 (STATE AGENCY REVIEW)

有害性評価	レビュー状況
国際化学物質安全性カード	http://www.inchem.org/documents/icsc/icsc/eics0305.htm
OECD HPV	http://www.inchem.org/documents/sids/sids/126307.pdf
REACH	http://echa.europa.eu/web/guest/information-on-chemicals/registered-substances http://echa.europa.eu/registration-dossier/-/registered-dossier/15079
NITE (独) 製品評価技術基盤機構	http://www.safe.nite.go.jp/japan/sougou/view/ComprehensiveInfoDisplay.jp.faces

法規制情報/分類・ラベル情報

(REGULATORY INFORMATION / CLASSIFICATION AND LABELLING INFORMATION)

法規制情報

法律	規制状況
船舶安全法	危規則告示別表第1 高温輸送物質 (溶解状態で輸送を行う場合)
航空法	爆発物等告示別表第1 高温輸送物質 (溶解状態で輸送を行う場合)
国連分類	クラス9 (高温輸送物質/溶解輸送時のみ)
国連番号	UN3257 (高温輸送物質/溶解輸送時のみ)
出典・備考	三菱ガス化学(株)発行のSDS 14項および15項参照

GHS分類情報

ハザード項目	分類結果 (危険有害性情報)
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	区分 1

ラベル情報

絵表示またはシンボル	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	・重篤な眼の損傷
出典・備考	三菱ガス化学(株)発行のSDS 2項参照



連絡先 (CONTACT INFORMATION WITHIN COMPANY)

会社名 三菱ガス化学株式会社
住所 東京都千代田区丸の内2-5-2
担当部門 天然ガス系化学品カンパニー
担当者 有機化学品事業部
電話番号/FAX番号 03-3283-4749/03-3214-0930

発行・改訂日 (DATE OF ISSUE / REVISION)

その他の情報 (ADDITIONAL INFORMATION)

初版： 2016年 3月 31日発行

改訂：

改訂日 (版)	(項目) 改訂箇所

特記事項：なし

免責条項 (DISCLAIMER)

この製品安全性要約書の目的は、対象品の情報を簡単な概要として提供することであり、リスク評価のプロセス及びヒト健康や環境への影響などの専門的な情報を提供するものではありません。また、安全性データシート(SDS)または化学品安全性報告書(CSR)などのリスク評価に代わる文書として作成されたものではありません。また、記載内容は現時点で入手できる法令、資料、データに基づいて作成しておりますが、いかなる保証をなすものではありません。